

家畜改良増殖目標畜種別研究会における検討状況について

1. 第 1 回研究会

次期家畜改良増殖目標を検討するため、畜種別に研究会を設置・開催し、本年 6 月から検討を開始。

(1) 開催状況

- ・乳用牛（6 月 9 日）
- ・肉用牛（6 月 8 日）
- ・豚（6 月 17 日）
- ・鶏（6 月 10 日）
- ・めん山羊（6 月 27 日）
- ・馬（6 月 24 日）

(2) 検討事項等

- ① 改良増殖をめぐる情勢
- ② 家畜改良増殖目標に係る現状と課題
- ③ 新たな家畜改良増殖目標の検討の視点について
- ④ 新たな家畜改良増殖目標について（討議）

2. 第 2 回研究会

第 1 回研究会の後、各委員より追加的意見等を頂きながら、新たな目標の骨子案を作成し、第 2 回研究会において議論（肉用牛については別添のとおり）。

(1) 開催状況

- ・乳用牛（9 月 29 日）
- ・肉用牛（10 月 7 日）
- ・馬（11 月 5 日）
- ・豚（10 月 15 日）
- ・鶏（10 月 16 日）
- ・めん山羊（11 月 12 日）

(2) 検討事項等

- ① 委員からの意見等と今後の方向性について
- ② 新たな目標の骨子案について

3. 現地調査

家畜改良及び生産現場の調査、関係者との意見交換等を通じ、家畜改良の取組がどのように生産現場で活用され消費につながるか等についての理解を一層深め、今後の家畜改良増殖目標の見直しに係る議論のより一層の深化を図るため、本年 8 月 20 日、現地調査を実施。

新たな家畜改良増殖目標（第10次）の検討状況について

－豚－

現状と課題

- ・繁殖能力（産子数）については、海外の豚改良先進諸国を大きく下回っている状況。遺伝率が低い繁殖形質の能力向上を効率的に進めるには、改良手法の見直しが必要。
- ・雄系については、消費者の多様なニーズに対応しつつ、食味の面で輸入豚肉との差別化が図られるよう、肉質の更なる改良を進めることが重要。



新たな改良増殖目標(案)のポイント

【能力に関する目標】

- ・国際競争力ある豚肉生産を推進するため、純粋種豚の繁殖能力や産肉能力の向上を図り、特色ある豚肉生産に向けた改良を推進。

① 繁殖能力

- ・1腹当たり育成頭数の向上に着目した改良を強化。

② 産肉能力

- ・生産コスト低減のため、引き続き飼料要求率の改善と増体性の向上を推進。
- ・デュロック種について、差別化やブランド化に資するものとしてローソ芯筋内脂肪の高い（概ね6%を目処）系統を作出・利用。

【能力向上に資する取組】

① 純粋種の維持・確保

- ・希少品種の活用、差別化を図るための特色ある品種の維持・確保。

② 改良手法

- ・繁殖性向上のため、開放型育種の導入も視野に入れた雌系純粋種豚の改良を推進。
- ・種豚の血縁ブリッジを拡大し、広域的な遺伝的能力評価に基づく種豚の選抜利用を推進。
- ・人工授精や受精卵移植等の技術利用とDNA情報を利用した育種改良の実用化。

③ 飼養管理

- ・地域の特色ある品種の活用等によるブランド化、エコフィードや飼料用米の積極的な利用を推進。
- ・飼料利用性と増体性の向上による肥育豚の出荷日齢の短縮。

※ 現在も議論中の事項

- 純粋種豚の繁殖能力（1腹当たりの育成頭数）に関する目標数値や肥育もと豚生産用母豚の能力数値（1腹当たり生産頭数、育成率、年間分娩回数、1腹当たり年間離乳頭数）をどの程度まで向上させるべきか。
- 効率的な改良体制（特に広域的能力評価）を進めるための関係機関の連携や役割分担をどうするか。
- 次期食料・農業・農村基本計画における食料自給率目標（37年度目標）と整合する目標値（飼養頭数を含む）の設定。